

多くの車が行き交う県道高崎駒形線の北側、利根川を挟んで対岸は前橋市という萩原町の住宅地の一角に、「萩原の大笠マツ」があります。

マツの樹齢は四五〇年以上、樹高は七メートルとあまり高くありませんが、東西二〇・五メ

◆前橋藩主から拝領した鉢植えが大きく成長

連載

烏川流域の巨樹・巨木 Vol.3

萩原の大笠マツ

～母屋を三度も動かした～

巨樹・巨木は、その地域の歴史とともに歩み、文化を育んできた地域の宝です。組合の管内にも多くの巨樹・巨木があります。管内の木々を皆さんに紹介します。



見事な枝張りのマツと3回移動した母屋

ートル、南北十八メートルにもわたる枝張りをもっています。

所有者である八木家が前橋藩主の酒井家から鉢植えのマツを拝領したのは、江戸時代前期のこと。それを庭に移植した後、大きく成長し、枝が母屋に迫ったため、これまでに母屋を三回曳家移動しています。

昭和三十年には群馬県天然記念物に、また昭和五十八年には「日本の名松100選」に選ばれています。

木曾ヒノキ、吉野スギなど、全国には林業にかけける労力、気候条件などにより、歴史を重ねてきた木材のブランドがあります。

一方、森林認証制度は、環境への配慮という視点で森林を評価し、ブランド化につなげていくとするものです。

この森林認証制度、世界ですでに多くの国で普及していますが、わが国では残念ながらあまり浸透していません。その中であって群馬県は、全国的に見ると認証が遅れている状況にあります。



今回は、この「森林認証制度」についてご紹介します。

◎「環境に配慮」により、他との差別化を図る

森林認証制度は、第三者機関が環境への配慮状況などの基準で森林を審査し、適正に管理されているかどうかをチェックするもの。審査を通過し認証されると、この森林から生産された木材や、それを利用してつくられた木製品にFSC、SGECなどの認証マークを付けて流通させることができます。

消費者が、これを「環境に配慮された森林で生産されたもの」と、他と差別化し購入することにより、付加価値を高めることができるというものです。

◎組合での取り組み

昨年度に策定した「SDGsへの取組戦略」、また本年の総代会で承認いただいた「森林組合系統運動」で計画したとおり、認証取得に向けて準備を進めています。